

秋山清・著作目録

人時代

- 1924年 *透明なおもひ出・詩(途上に現はれるもの13号)
 1925年1月 豚と鶏・詩(詩戦行)
 1926年9月 蚊帳・詩(詩戦行) 鯉節・詩(〃) 胡瓜・詩(〃) 11月 秋・詩(詩戦行) プロレタリア文芸の汎芸術基調2(〃)
 1927年1月 詩人に贈る(詩文学) 2月 無産者文芸に於ける我等の方向(詩戦行) 4月 詩人アナキズム(詩学) 巻頭言(詩戦行)
 1928年5月 アナキズム文芸と詩人(全詩人連合2号) 6月 長靴・詩(単騎) 8月 我等のプロレタリア文学と個性(単騎) 孤独の日に於ても・詩(〃) 10月 エレベーター・ボーイ(文藝ビル) 海峽・詩(単騎) 箱の中から(矛盾)
 1929年2月 新民謡を形づくる要素の分解とその批判(民謡詩人)
 1930年3月 手・詩(弾道) 帽子家の小僧へ・詩(水河) 残される者(筆名北村久二郎)・小説(黒戦2号) 4月 拍車・詩(弾道2号) 詩を書いている者とその感想(〃) 9月 騎兵・詩(詩神)
 1933年5月 岡本潤詩集「罰当たりは生きてゐる」・書評(詩

- 1934年 *クロンスタットの敗北・詩(自由連合89号)
 1940年3月 幼稚な夢(詩原創刊号) 4月 海峽・詩(詩原2号)
 1942年 『南洋の林業』(筆名高山慶太郎)(豊国社)
 1943年 『チークの話』(〃)(木材経済研究所)
 1944年 『日本の木、南の木』(〃)(文松堂書店)
 1946年8月 深川・ルポ(ルポルタージュ・東京の一日) 12月 月 近江路・詩(草の葉3号)
 1947年9月 詩雑誌雑感1(新詩人2巻9号)
 1949年1月 島崎藤村(審善社「近代詩人研究会」) 12月 詩について―現実を追究する精神(コスモス13号) 「旅宿帳」と錦米次郎(〃) *麦のうれた路を・詩(短歌雑誌研究第3集)
 1950年1月 コスモス雑記(コスモス14号) 2月 孤立の悲しみについて(コスモス15号) 5月 リアリズムをかきたてるもの(現代詩) 詩について―大阪での印象―言葉の持論(1)(新詩人) 詩について―詩と短歌その他の問題(新日本文学) 6月 詩について―「アルバイト」など―言葉の持論(2)(新詩人) 7月 詩人論―高村光太郎と民衆詩派―言葉の持論(3)(新詩人) 8月 詩人について―青春の恋のうた―藤村―(コスモス16号) 9月 詩について―恋愛詩の言葉―言葉の持論(4)(新詩人) フランス映画のおとで・詩(新日本文学) 選挙・感傷(社会新報) お

- 人よしの優越感―勤労者の詩の反省(〃) 第1号の読後感(処女地帯2号) 10月 詩人松本淳三のこと(社会新報) 詩壇時評(コスモス17号) リアリズムの展開―安東次男「6月のみどりの夜わ」について(〃) 11月 魚町―秋田で・詩(処女地帯3号) 12月 短歌・俳句・川柳その他(新日本文学)
 1951年3月 詩について―民芸通信の詩について(新日本文学 埼玉支部民芸通信2号) 4月 金子光晴詩集解説(創元選書) 船川線・詩(処女地帯5号) 5月 詩について―詩の方法についての反省(Yへの手紙)(北方詩人) 詩について―最近の錦米次郎の詩について(三重詩人) うわさの封建性(新日本文学) 高島茂の作品について(俳句研究) 6月 「金子光晴詩集」―創元選書―(人間) 現代民衆詩選(秋山選) (〃) 9月 講和とパチンコ(社会新報) 10月 「原爆の子供」―胸にひびく叫び―書評(社会新聞) 11月 新協によせるのぞみ(新協研究公演パンフレット) 詩について―花外について(鳩NO・7) 12月 歪曲された真実―東京支部総会に関する「人民文学」記事(文学新聞NO・40) * 「金子光晴詩集」・書評(人間6号) 「金子光晴詩集」・解説(創元選書)
 1952年1月 新居格さんのこと(新日本文学) 4月 俳句への感想―虚子と波郷について―(俳句研究復刊号) 詩人について―啄木の成長―民族詩人としての―(新日本文学) 詩人について―啄木と民族(新日本文学) 5

- 月 宮島さんについて(アフランシNO・3) 6月 大会後の感想(新日本文学) 事実と真実を(東武交通労組組合新聞) 「無名詩集」の欄解説(潮) 7月 季題についての感想(暖流) 「銀行員の詩集」一九五二年版・書評(新日本文学) 虹の面輪(俳句) 俳句についての感想―季題―(ちまき) 8月 嵐について(合成化学) 東京の並木(潮NO・2) ソ連と古橋(新日本文学) 「祖国の砂」解説(筑摩書房) 「無名詩集」の欄解説(潮) 9月 峠三吉「原爆詩集」・書評(新日本文学) 「私は祖国を愛する」その他(ヨルカNO・5) 10月 「無名詩集」の欄解説(潮) 詩について―よい詩とわるい詩の問題―日通文学の2・3の詩人について―(日通文学) 12月 基地ヨコハマ(東洋経済別冊) 岡本潤と野間宏へ(新日本文学) わるい詩の見本―「始売の少女について」―(〃) 東京の並木(WHO3号)
 1953年1月 芥川と和田久太郎の俳句(俳句研究) 現代詩についての抱負(群生) 2月 選後感想(葦) 3月 無題(手紙の形) (三重詩人通信NO・2) 4月 小熊秀雄「闇に開いたバラ」・書評(東大新聞) 啄木の恋愛短歌(新日本歌人) 選後感想(葦) 5月 三つの詩をつなぐ糸(津田塾文学) 死が早すぎた(新日本文学) 6月 スターリン追悼の作品(新日本文学) 選後感想(葦) 7月 辻政信論(人物新潮) 基地ヨコハマの生態(〃) 8月 選後感想(葦) 9月

「機械のなかの青春」・書評(新日本文学) 映画「石の花」(河出書房ソヴェト文学全集月報) 10月 中村草田男(1) (俳句研究) 俳人芥川龍之介(人物新潮) 選後感想(葦) 11月 中村草田男(2) (俳句研究) 句と歌と海のこと(暖流) 「鋼鐵」と「鋼滓」文学的教訓(河出書房ソヴェト文学全集月報) 高村光太郎(人物新潮) 12月 牧水と夕暮の時代(河出書房現代短歌大系月報) 中村草田男(3) (俳句研究) * 「瓦礫」批評-更に前進へ(暖流) 潜水艦が侵入する-東京湾の防潜網(改造別冊)

1954年1月 選後感想(葦) 児玉花外(人物新潮) 短歌のつよみとよわみ-内灘の歌三人(新日本文学) プロレタリア文学運動の外側から(河出書房現代文学論大系月報) 中村草田男(4) (俳句研究) 2月 選後感想(葦) 3月 「山の子一平」・書評(新読書) 4月 選後感想(葦) 啄木の百姓の歌(新日本歌人) 石川啄木遊いて四十二年(新読書) 俳句のわかりにくさということ(1) 中村草田男(暖流) 5月 選後に(新人文芸) 俳句のわかりにくさということ(2) 中村草田男(暖流) 6月 選後感想(葦) (3) 中村草田男(暖流) 選後に(新人文芸) 嵐について(河出書房ソヴェト文学全集月報) 勅使河原蒼風(人物新潮) 松永浩介「船底修理」・書評(新日本文学) 新しい方法の追求は?(葦) 7月 選後に(新人文芸) 選

後に(葦) 俳句のわかりにくさということ(4) 中村草田男(暖流) 素朴質実ということ(新日本文学) 日本人としてよむ蝦球(河出書房現代中国文学全集月報) 8月 選後感想(葦) 言葉は考える道具だ(新日本文学) 伊藤和の詩(現代詩2号) 9月 選後感想(葦) 選後に(新人文芸) 抒情詩について-事件の詩の感想(新日本文学) 10月 選後感想(葦) 選後に(新人文芸) 「古田大次郎の手紙」掲載までのこと(新日本文学) 抒情詩について-事件の詩の感想(2) (現代詩) 二律背反等々(1) 中村草田男(暖流) 11月 選後に(新人文芸) 二律背反等々(2) 中村草田男(暖流) 12月 みちのく俳句論(暖流) 歌集「日本の地図」・書評(新日本文学) * 藤山愛一郎(人物新潮) 平沢清一郎「社用族の感傷」・書評

1955年1月 壺井繁治「現代詩案内」・書評(読売新聞17日) 二律背反等々(3) 中村草田男(暖流) 目ぶたをおろしてください・詩(現代詩) 2月 二律背反等々(4) 中村草田男(暖流) 句集「浅瀬の唄」・書評(新日本文学) 特別な環境の歌-職場文芸(9) (労働経済旬報) 3月 無色透明の一般(ヒューマニズム等々) 錦米次郎の誤解について(三重詩人30号) 4月 二律背反等々(5) 中村草田男(暖流) 抒情詩について(3) (現代詩) 7月 赤城さかえと小川一灯(暖流) 8月 二律背反等々(6) 中村草田男(暖流) 投稿詩月評(現代詩) 10月 投稿詩月評(現

代詩) 11月 サークル誌の短歌と俳句(新日本文学) 同人誌評(現代詩) 12月 同人誌評(現代詩)

1956年1月 風倒木(現代詩) 2月 中野鈴子小論-わかりやすい詩について(現代詩) 投稿詩月評(葦) 3月 戦争責任と詩の方法(現代詩) 暖流句集読前記(暖流) 5月 高村光太郎の死(現代詩) 「石ころの歌える」(野間宏編)・書評(葦) 投稿詩月評(秋山・滝口・金子) 連名(葦) 7月 アナーキストの文学①-近代思想の先駆性(クロハタ) 田川飛旅子感想-句集・花文字・書評(暖流) 8月 アナーキストの文学②-小説「坑夫」の生命(クロハタ) アナーキストの文学③-安成二郎の短歌(葦) 9月 大杉栄を思う-人間の到達(クロハタ) アナーキストの文学④-青柳優の文学評論(葦) 10月 『文学の自己批判』(新興出版社) アナーキストの文学⑤-昭和のはじめの詩人群(クロハタ) 10月13日の砂川(葦) 11月 アナーキストの文学⑥-昭和のはじめの詩人群(葦) アナーキストの文学⑦-昭和のはじめの詩人群(葦) 東欧近東の動乱と民族主義(葦) 12月 文学運動と石川さん(新日本文学) アナーキストの文学⑧-テロリスト中浜哲の詩(クロハタ)

1957年1月 日共など非難したのではないけれど(ひろば) 新宿界隈の並木(しんじゅく) 「アジアの革命」・書評(新読書219号) アナーキストの文学⑨-小説家新居格「鳥」について(クロハタ) 2月 アナーキストの

文学⑩-俳人和田久太郎(クロハタ) アナーキストの文学⑪-反逆的労働者詩人後藤謙太郎(葦) 石川三四郎さんの死-悔の追懐(新日本文学) 3月 アナーキストの文学⑫-上村實のいばらの道(クロハタ) アナーキストの文学⑬-「文明批評」と伊藤野枝の小説(アフランシ) 「素朴なりアリズム」をめぐる-詩の素朴について(樹木と果実) 11月 堀の上にガラス・詩(処女地帯28号) * アナーキストの文学⑭-飯田豊二(アフランシ) アナーキストの文学-向井孝

1958年2月 「汚れた女」・書評(土曜日曜新聞15日号) 8月 「榛の木と夜明け」を読んで(La別冊) 10月 テロリストの作品(現代詩) 12月 テロリストと文学(新日本文学) 漂泊の詩情(上) 素描・植村諦(日本未来派)

1959年1月 漂泊の詩情(中) 素描・植村諦(日本未来派) 3月 漂泊の詩情(下) 素描・植村諦(日本未来派) 5月 遠地輝武「現代日本詩史」(新日本文学) 6月 トルラーの「燕の書」(本の手帖) 7月 『家のはなし』(コスモス社) 8月 植村諦と無政府共産党事件(クロハタ44) 詩集「鎮魂歌」について・書評(詩学) 9月 伊藤野枝の再評価はわれらの任務(クロハタ45) 植村諦追悼略年譜(日本未来派89号) 回想あれこれ-植村諦回想記(葦) 12月 新井鉞一郎「物語近代日本文学史」・書評(新読書)

1960年1月 二つ三つの感想(群) 2月 吉本隆明君とのつ

きあい(現代の発見・付録) アナキスト 岩佐作太郎・萩原恭次郎(「転向・中巻」平凡社) 3月 孤立のかなしみ(思索と生活1号) 6月 伊藤和のこと1詩人について(現代詩「ガヤガヤ欄」) 解説(国土社「伊藤和詩集」) 7月 日本のアナキズムの特殊な性格(近代文学アナキズム特集) 8月 今月のベスト・スリー(現代詩) 9月 今月のベスト・スリー(現代詩) ある川柳作家の生涯―反戦作家・ツルアキラ(思想の科学) 10月 今月のベスト・スリー(現代詩) 11月 『日本の反逆思想―アナキズムとテロルの系譜』(現代思潮社) 今月のベスト・スリー(現代詩) 12月 今月のベスト・スリー(現代詩) *大逆事件犠牲者を記念するとは何か? (クロハタ49) 冬の短歌と詩

1961年1月 詩集「癌」についての感想・書評(新日本詩人N O・8) 大逆事件再審棄却―国家権力の非合法性(自由連合) 3月 いいだも「権威原理と自律原理」・書評(春秋社) 幸徳の「直接行動論」の今日的意義(「アナキズム」NO・18改題第1号) 「特集・日本のアナキズム」について(図書新聞) 4月 ヒットラー「我が闘争」(クロハタ) 「サド」の裁判(「」) 牡蠣と芍薬―バクーニンの夢(BOOKS) 二つの左翼詩集を比べての感想(読書人) 5月 弾道と詩行動(本の手帖3号) 詩集「原子力」についてのごうまん書評(新日本詩人9号) 6月 逸脱の反論(新日

・NO・1) 6月 反・政治 社会、国家(議会主義との決別) 資本家組・掌説(クロハタ77) 主張(「」) 江口渙の「テロリズムの克服」・書評(「」) エレンブルグの手記(「」) 時点(「」) 農地解放と有島武郎(思想の科学) 7月 児玉花外「社会主義詩集」・書評(新日本文学) こどものこんな詩が好き(詩の手帖) 大沢正道「自由と反抗の歩み」・書評(図書新聞7月21日) 8月 選挙について! 政党について! (クロハタ78) 時点(「」) アナキズム・人と思想―ピーター・クロボトキン(「」) ふかい霧・掌説(「」) 6・15記念集会のこと(「」) 9月 アナキズム・人と思想―大杉栄(自由連合NO・79) マラテスタ・掌説(「」) 主張(改題「自由連合」) (「」) 時点(「」) 松尾邦之助「近代個人主義とは何か」・書評(図書新聞) 10月 主張―平和・原水禁止運動への疑問(自由連合) 裁判・掌説(「」) 時点(「」) 民族と資本主義(「」) 祖國と愛国(「」) 世界をゆるがした10日間(図書) 11月 詩と農本主義についての気ままな回想(微塵) コスモス雑誌(コスモス再復刊1号) 有難ヤ・掌説(自由連合NO・81) 答え(「」) 12月 問題とすべき平和運動の二つの性格(自由連合NO・82) ぶどうの会「明治の枢」(「」) 総評の第(「」) 二一回臨時大会について(「」) *時点・物価倍増と政治家の出たら目(クロハタ) 時点(「」) 反抗者「サド」(一橋新聞716号) 最大の事件―サド公判

本文学) アナキスト・小川未明(読書新聞) 人生途上に一つの転機となった出来ごと・アンケイト(日本の夜と霧のパンフレット) 大杉栄「自叙伝」かいせつ(現代思潮社) 7月 プロレタリア詩研究会発足の記事(クロハタ) 「日本の夜と霧」をみて(「」) 私のリバイバル(1)―日本の夜と霧とクロンスタット(構想の会会報) 詩について―工女のうた(月刊三二) 8月 コスモス創刊(詩学夏期増刊号) 11月 生活者の論理―ヤマギシ会のこと(BOOKS) 12月 過去に向けての出発(思索と生活2号) 山本飼山(BOOKS) 井手文子「青踏」・書評(読書新聞) 辻潤の思想と現代(「」) 「自由思想」第7号(クロハタ) 近況など・アンケイト(図書新聞) 二つの会合―後方の講演会―辻潤の追悼会(クロハタ) *内海信之詩集「硝煙」・書評(図書新聞) 剣花坊の川柳(樹5号) 今も変らぬ(大逆事件ニュース12号)

1962年1月 文学的政治的解決(春秋) 「ボストン」と夢(本の手帖夢二特集) 戦争と少年(BOOKS) 弾圧下の南北朝鮮統一運動(クロハタ) 時点(「」) 井手文子「青踏」・書評(「」) 新日文大会(「」) 全学連日銀ヘデモ(毎日新聞1月24日夕刊) 「山村暮鳥全集」・書評(東京新聞夕刊) 2月 時点(クロハタ) 「民と拍車」・書評(「」) 5月 勝敗のニヒル(BOOKS) 三国同盟・掌説(クロハタ) 秋田雨雀氏の生涯(読書新聞1156号) ある孤独・詩(BAN

1963年1月 無頼漢 発言について(自由連合) 植谷雄高「闇のなかの思想」・書評(「」) 時点(「」) まえせつアナキズム文学運動史(「」) アナキストの責任(「」) 岩崎呉夫「炎の女」・書評(「」) 3月 ある孤独・詩(コスモス21号) コスモス雑誌(「」) おっとせいと民衆(金子光晴)―コスモスの人(1) (「」) 4月 さくら吹雪とゼネスト(自由連合) 5月 地方選挙とメーデー(自由連合) 時点(「」) メーデーに思う(「」) 「朴烈金子文子事件」の真相を森長氏が究明(「」) 明るみに出た朴烈事件(読売新聞5月6日) 6月 アナキストの生誕期小説「白き葡萄の花に酔い」(自由連合) 無頼漢問題と暴力問題(「」) 時点(「」) 労働運動史研究会で大杉栄の研究(「」) 阿呆踊りと赤旗―38回メーデー見聞(「」) 這いつくばる政府・政党(「」) 特集「倉橋と車輪」をよむ(現代史研究―現代社会思想研究所月報26号) 保守の人・金子光晴(本の手帖) はじめて読む「赤土の家」(「」) 「こがね虫」の美の意味(「」) 7月 時点(自由連合89号) 上野頼三郎のしごと(「」) はじめて大杉栄伝―多田道太郎著(「」) 8月 プロレタリア詩再創造の機運(コスモス第3次3号) ある孤独・詩(「」) 内部のユートピア(宮崎護)―コスモスの人(2) (「」) 松田道雄「反逆者の肖像」・書評(共同通信) 自称アナキストか他称アナキストか(自由連合90号) ポツダム宣言? (「」) 日本を流れる炎の河「広島詩集」(「」)

時点(〃) 9月 『短歌入門』(三一書房) 時点
 (自由連合) 権威主義と喪失(〃) 大杉栄―その思想と行動(〃) 吉田只次老の死(〃) 過渡期の文学(4) 小川未明論(早稲田大学新聞912号) 「大杉栄全集」の資料・書評(図書新聞28日号) 10月 二つのこと(築摩書房現代日本思想大系「アナキズム」第16巻月報5) 総選挙がある(自由連合92号) 南海黒色詩集と愛媛の詩人たち(〃) 時点(〃) 11月 「赤と黒」(旧刊文庫) 書評(図書新聞) 内部のユートピア(宮崎謙)―コスモスの人(2) (コスモス3次4号) ある孤独(目をつぶった目ぶたの) (〃) ある孤独・詩(自由連合93号) 押切順三「大監獄」・書評(〃) 時点(〃) 選ばぬ権利(〃) 12月 時点(自由連合94号) 石川三四郎追悼録(〃) 主張―テロを導くのは誰か(〃) 添田知道「演歌の明治大正史」・書評(〃) 漫画(〃) *ある孤独2篇(うさぎ・猛禽) (処女地帯NO・55) 転向論・解説(金子光晴全集第3巻)

1964年1月 剣花坊走り読み(大衆文学研究) 大杉栄全集「ロシア革命論」・書評(自由連合95号) 斎藤峻「夢にみた明日」・書評(〃) 2月 アナキスト詩集(コスモス3次5号) わが写実派たち―木暮真人と清水清―(〃) 矢橋丈吉「黒旗のもとに」・書評(読売新聞) アナキー・アナキズム(新日本文学) 渋谷定輔詩集「野良に叫ぶ」・書評(図書新聞) 松田道雄

編「アナキズム」・書評(人間の科学) 3月 武装せる予言者トロッキー・書評(共同通信、新潟日報) 愛書紹介(〃) 芸人と芸能人(思想の科学) 4月 直接行動論以後(自由連合97号) 新日本文学会は解散すべし(〃) 追悼八首(田代儀三郎)・短歌(〃) 詩について―埋もれる一つの農民詩集(〃) 時点(〃) アナキズム再評価の季節(上) (東京新聞2日夕刊) アナキズム再評価の季節(下) (東京新聞3日夕刊) ある孤独・詩(新日本文学) 5月 アナキズムと現代への影響(北海道新聞) ヤマギシ会(人間の科学NO・12) 新日本文学会は解散すべし(続) (自由連合98号) 時点(〃) 主張(〃) クロポトキン(二〇世紀を動かした人々6) 講談社) 6月 ある孤独・詩(コスモス3次6号) 東京コスモス会(〃) わが写実派たち(2) (〃) 主張(自由連合99号) 時点(〃) 7月 「大杉栄全集」・解説(現代思潮社) 未明の「黒い旗」(子ども研究NO・3) ある孤独・詩(詩学) 生活詩と「たいなあ詩」(児童詩教育) アナキズムの現代的意味―反逆の精神として―(自由連合100号) 矢橋丈吉死す(〃) 反近代国家思想(〃) 大逆事件記録第2巻・書評(日本読書新聞) 「回想」の否定(中止記事) (〃) 8月 小野十三郎「奇妙な本棚」・書評(自由連合101号) 子どもの詩が世界をかえる(人間の科学NO・14) 9月 関東大震災の回想(「学習のひろば」炭炭) 主張

天災よりも人災こそ(自由連合102号) 詩集「広島のうちた」・書評(〃) その主人公の好み(本の手帖「大衆文学研究」) 10月 主張・安定ムードの中にある(自由連合103号) テーマが問題だ―民芸「冬の時代」をみて(〃) 木下順二「冬の時代」をみて(読売新聞) 堺利彦と大杉栄(大阪労演民芸「冬の時代」) 11月 野口雨情論(人間の科学) 回答―アンケート(早大新聞) ある孤独・詩(コスモス3次7号) 戦後詩の私的な回想(1) (〃) 解説(えのきたかし詩集「老狙撃兵」) 12月 解説(大杉栄全集第12巻「自叙伝」) 富士山麓の1964年度会議(自由連合104号) 時点(〃)

やつ―伊藤和の死―詩(〃) 6月 反選挙は反議会から(「意志表示」前進社) 思想家としての辻潤―人と思想(本の手帖NO・44) 危険な思想の実体(東北大新聞395号) 形容詞では足らぬ・詩(コスモス3次9号) 伊藤和を悼む(〃) 夜と昼・詩(〃) 戦後詩の私的な回想Ⅲ(〃) 時点(自由連合111号) もういっぱい・詩(〃) 生活と怒りの詩人「吉田欣一詩集」(〃) 7月 高群逸枝「火の国の女の日記」・書評(図書新聞) 「春月全集」を逸す(〃) C・マーティン「科学から自由へ」・書評(読売新聞) 8月 日露の役と鴉外の詩(本の手帖「戦争と文学」特集) 「火の国の女の日記」―高群逸枝自伝―(自由連合) 9月 カーの大沢正道訳「バクーニン」・書評(図書新聞) 中村暹「俳句と人生」・書評(自由連合112号) 「定本平出修集」・書評(〃) アナキスト連盟の20年(〃) 10月 高見順と無頼漢論議(本の手帖 高見順追悼号) 11月 本と人間(1)―書評と書評新聞(エグゼクティブ) 時点(自由連合) アナキストは手をつかねているのか(〃) 近ごろ面白かった本・アンケート(読書新聞) 戦後詩の私的な回想(Ⅳ) (コスモス3次10号) 松永浩介(〃) 12月 「日韓」反対デモの過激派とは(自由連合115号) 青春を満喫した人「岡本潤自伝」・書評(読売新聞) 本と人間(2)―文化の層(エグゼクティブ)

1965年1月 正木亮「死刑」・書評(共同通信特信E.A) あなたはどんな葬式がしたいか―アンケート(思想の科学) 貫徹する現実主義「総同盟五十年史」・書評(図書新聞) 解説(大杉栄全集第13巻「日本脱出記」) 2月 主張―ナショナリズムの正体(自由連合106号) 戦後詩の私的な回想Ⅱ(コスモス3次8号) ある孤独・詩(〃) 3月 中野重治・勝本清一郎の発言を駁す(自由連合107号) 「家庭雑誌」と大杉栄(〃) 明らかになった赤羽巖穴の思想と行動(〃) 解説(大杉栄全集第14巻「人生について」) 4月 盆地・詩(自由連合) 内称―アナキズム研究会(図書新聞) 5月 戦闘的農村詩人―伊藤和死す(自由連合) 非情目ざす短詩運動「諷詩・第1集」出る(〃) 死んだ

1966年1月 今も変わらぬもの(大逆事件ニュース12号)

本と人間(3) (エグゼクティブ) 森長英三郎「大石誠之助の情歌」について・書評(図書新聞) 鮎川信夫「戦中日記」・書評(神戸新聞) 国家権力の非合法性(自由連合) 時点(〃) 2月 村松武司詩集「朝鮮海峡・コロンノ碑」・書評(図書新聞19日号) 岩淵氏を悼んで(読書新聞) 本と人間(4) 純愛もの(エグゼクティブ) 何かしらぬ・詩(自由連合117号) 3月 「木佐木日記」(本の手帖) 歴史のなかの秋田雨雀日記(〃) マルクスとバクーニン(医療と福祉) 本と人間(5) 時代と全集(エグゼクティブ) 詩への違和と親近―光太郎について(図書新聞) 人道主義の破綻(自由連合) 4月 戦後詩の私的回想―人民詩精神(コスモス3次11号) 北本哲三(〃) 蝸牛角上(〃) 本と人間(6) 一私のこの一冊(エグゼクティブ) 元陸軍大将の反省―今村均の回顧録・書評(図書新聞) 5月 「スペイン革命」研究会(図書新聞) この先駆的な人・中野秀人(図書新聞) 本と人間(7) 一軍人の書いた本(エグゼクティブ) 誕生日・詩(自由連合) 6月 本と人間(8) 一入門書(エグゼクティブ) 7月 オーウェル「カタロニア讃歌」・書評(図書新聞865号) 内村剛介「呪縛の構造」・書評(〃) 詩の歴史と展望(コスモス3次12号) 「中野秀人(追悼)」(〃) 8月 木原実「明治の社会主義者」・書評(図書新聞871号) アナキズム詩の回想(詩と批評) 9月 「革命」とはなにか

らのメーデーに(〃) たのしき読みもの「テロリスト群像」(〃) 6月 ホームラン嫌い―後楽園野球場昨今(東京ニッポウ15日) 水尾比呂志「民芸の美」・書評(読書新聞1410号) 若杉慧「石仏のころ」・書評(読書新聞1412号) 明治百年と発禁詩集(読書新聞1413号) 7月 田河水泡「少年漫画詩集」・書評(図書新聞) 舟木枳郎「日本童謡画史」・書評(読書新聞) かえらぬもの・詩(自由連合132号) 時点(〃) 8月 契約違反(思想の科学) 「大逆事件の裁判」を裁く時が(大逆事件ニュース第15号) どんぞこで歌ふ(図書新聞26日号) 9月 広野晴彦編「生田春月詩集」・書評(図書新聞2日) べ反委第1回公判流る(自由連合133号) 栗原貞子の詩集・書評(〃) 時点(〃) ある農本主義との論争(黒の手帖) 10月 『ある孤独』(コスモス社) 週刊ペーボール500号記念号(図書新聞) べ反委の公判をかく見よ(自由連合134号) 時点(〃) 11月 公判は闘争である(自由連合135号) 大正の労働運動を綿引氏にきく(〃) 暴力と権力(〃) 時点(〃) 二つのこと(コスモス3次15号) 松尾邦之助「ニヒリスト辻潤の思想と生涯」・書評(読書新聞1434号) 暴力は非暴力である(三田新聞アナキズム特集) 解説―自由を求めるのが反逆(「青春の記録3」三一書房) 12月 ある孤独(蛾2号) 「労働放浪監獄より」・書評(図書新聞939号) きわまった「権力」

(自由連合123号) 時点(〃) 政治優位の文学論(1) (〃) 10月 政治優位の文学論(2) (自由連合124号) どのようなトルストイ展がくるか(〃) ベトナム戦争と日本(〃) 時点(〃) 11月 詩集『白い花』(コスモス社) ことば―走り書きの感想(黒の手帖第1号) 12月 台風通信・詩(コスモス3次13号)

1967年1月 私にも文学の責任を(新日本文学) マスコミと労組(自由連合) アメリカ帝国主義の奴隷(〃) 森長英三郎「史談裁判」・書評(図書新聞) 2月 壺井繁治「激流の魚」・書評(図書新聞) 邪念の徒の文学―高橋和巳(図書新聞) 4月 「激流の魚」「馬」・書評(詩と批評) 黙秘に関するデマ(自由連合) 新短歌の歴史とは(読書新聞1401号) すてきな若者(読売新聞) 逸見猶吉ノート(読書人24日号) 雪・詩(自由連合129号) アナボル論争・A(黒の手帖) 5月 前芝茂人「山へのあこがれ」・書評(読書新聞1日号) 森長英三郎「風霜五十余年」・書評(読書新聞15日号) 詩の普及を疑う(東京ニッポウ4日) プロ野球とスポーツ紙(東京ニッポウ11日) 幻の詩集・上「社会主義の詩」(図書新聞20日号) 幻の詩集・下「俗体詩」(図書新聞24日号) 『白い花』後日記(コスモス3次14号) 近くて遠い怠慢(〃) 我が暴力考(東京工大新聞20日号) ある孤独・詩(詩と批評) 時点(自由連合130号) 今年はわれ

の卑屈(自由連合136号) 大会追記(〃) 非暴力主義(〃) 「1967年」を明日へ(〃) 時点(〃) 「蒼ざめた馬」川崎淡・書評(〃) 世界の名著42巻「アナキズム」・書評(〃) ふとした感想―現代詩について(南北)

1968年1月 詩ブーム感あり(思想の科学) 世界の名著42巻「アナキズム」・書評(図書新聞945号) 大杉栄・遠地輝武・守田有秋・村松正俊・植村諦(新潮社文学小辞典) アナボル論争・B(黒の手帖) 2月 私はどのようにして日本語を学んだか(思想の科学) 呼びかけぬ・詩(自由連合138号) ケヤキ(別冊中央公論) 湯本喜作「愚庵の周辺」・書評(読書新聞1446号) 3月 初期詩集『豚と鶏』(ガリ版刷り) (コスモス社) 佐藤首相論―おもしろおかしくもなし―(展望) 「定本生田春月詩集」・書評(詩と批評) 朝鮮人を朝鮮人といえ(自由連合139号) 愛してください・詩(〃) 権威に弱いヤクザ映画(〃) 時点(〃) 「幸徳秋水全集」の発刊・書評(大逆事件ニュース16号) 4月 正岡容「日本浪曲史」・書評(南北) 「幸徳秋水全集3」―もうひとつの明治百年・書評(図書新聞NO.957) 不服従の思想(埼玉大学新聞129号) 5月 秋水の「帝国主義論」・書評(自由連合) 宮本研「美しきものの伝説」・書評(大阪労演NO.229) ある現実主義の正と負「宇垣一成日記」・書評(図書新聞961号) 洋服屋詩人の思い出(コ

スモス3次16号) 「秋田勢」・他(〃) ヤクザ映画はさらに満腹感を与えよ(映画芸術) 6月 ウソヲイウナ(自由連合141号) 時と所をとわず(〃) 風倒木(存在) 選挙についてアンケート(アナルコス創刊号) 直接行動論考(幸徳秋水全集4巻付録) 7月 あるテロリストの情熱の文学(読書人733号) ニヒルとテロル(出版ニュース) 暴力から詩への考察(二橋新聞16日号) 夢二「春の夜の夢」・書評(図書新聞971号) 彼はいつ死んだ(萩原恭次郎詩集付録) 子母沢寛の死と「蝦夷物語」(読書新聞1469号) 一つの感想(押切順三詩集「斜坑」あとがき) 8月 『竹久夢二』(紀伊国屋書店) サッコ・パンゼツチ事件の抗議(自由連合143号) 今日の問題(〃) 幸徳秋水全集4巻「社会主義神髓」他・書評(〃) 政治不信と自己不信(〃) ウッドコック「アナキズム」・書評(読書新聞1471号) 安川定男「有島武郎論」・書評(同時代NO・23号) ウッドコック「アナキズム」・書評(東京新聞15日号) 大沢正道「大杉栄研究」・書評(図書新聞31日号) 大沢正道「大杉栄研究」・書評(読売新聞29日夕刊) イワシのヌカミソ煮(読売新聞30日朝刊) 東京の並木(ほるぶ新聞15日号) 9月 「ニヒルとテロル」(川島書店) それでも生きていく人々「有島武郎の「カインの末裔」(こども部屋) 国家権力は弾圧する(自由連合NO・144) 民主主義の反動性(〃) 時点(〃)

考(バルチザン通信NO・14) 「魔女伝説」を見る(図書新聞1005号) 天才! 島田清次郎(学芸書林「ドキュメント日本人」) 鑑賞岡本潤(現代詩鑑賞講座7巻) 4月 「キューバの恋人」(現代の眼) 5月 「オー!」(現代の眼) 山崎今朝「地震憲兵火事巡査」・書評(図書新聞1013号) 返事(原稿依頼を断ったもの)(高田正七個人誌「二十五年」) 受難の詩集(角川書店現代詩鑑賞講座6) 6月 「できごと」(現代の眼) 与謝野晶子「みだれ髪」・書評(読書新聞1505号) ダニエル・ゲラン「現代アナキズムの論理」・書評(図書新聞1016号) 自由・権力・性―日本人の性観念序説(「性の思想」太平出版) 天田愚庵(「明治の群像」三書房) アナボル論争・C(2) (黒の手帖) 7月 飛鳥井雅道「幸徳秋水」・書評(ほるぶ新聞40号) 近藤憲一「私が見た日本アナキズム運動史」・書評(読書新聞1506号) 金子ふみ子のこと(思想の科学) 8月 飛鳥井雅道「幸徳秋水」・書評(読書人788号) 身辺雑事(コスモス3次19号) もう一つの詩集―斎藤巖・若日日の彼と(〃) 「忘れ得ぬ人」(ほるぶ新聞42号) 象のはなし・詩(婦人公論) 漫画は素朴に素直に斬り込む(漫画主義NO・7) 子供のための啄木伝(「子供のための伝記図書館」) 9月 「エロス+虐殺」についての随筆的感想(映画評論) 東京の並木(中央公論) 新居格「区長日記」・「左傾思想」(図書新聞1028号)

宮嶋と大杉(アナルコスNO・2) 解説・最初の衝撃(学芸書林「現代文学の発見第1巻」) はじめての感想(斎藤巖詩集「窓枠の朝」) 10月 吉田欣一詩集「ベトナムに平和を」・書評(読書新聞28日号) 戦後アナキストの文学運動はなかった(自由連合NO・145) 時点(〃) 与えられる自由の限界(〃) ヒゲを剃っておいで・詩(〃) 11月 『秋山清詩集』(現代思潮社) ウッドコックの「アナキズム」・書評(世界) 孤独(膝)・詩(早稲田祭第15回パンフレット) 時点(自由連合) 見た風景・詩(〃) 戦後詩―回想(IV) (コスモス) 金子光晴「愛情69」―愛の侮蔑・書評(図書新聞989号) 12月 森長編「大石誠之助の情歌」・書評(自由連合) 夢二の社会主義(ノール書房「竹久夢二」) 「国家」ということは(アナルコス3号)

1969年1月 私の交友録(図書新聞1日号) リード「アナキズムの哲学」・書評(朝日ジャーナル11日号) かなしい思いはしたくない―ある中島可一郎の文章について(あいなめNO・1) 夢二の絵の詩情(ほるぶ新聞25日号) 「自連」の終刊(自由連合147号) おれたちを憎め・詩(〃) アナボル論争・C(1) (黒の手帖) 2月 身辺雑事(コスモス3次18号) 3月 「新宿泥棒日記」(現代の眼) 直接行動の思想(労働評論) 「どんたく」の夢二(近代文学館ニュース14号) ダムダム・詩(図書新聞1003号) わが暴力 森山重雄「実行と芸術」・書評(図書新聞1030号) 山本一哉企画「愛の旅路」・書評(図書新聞1033号) 明治の叛逆者たち(伝統と現代) 10月 「戦後詩の私的な回想」(太平出版社) 11月 「ねじ式映画・私は女優」をみて(読書新聞1519号) 萩原晋太郎「日本アナキズム労働運動史」・書評(読書新聞1520号) ある孤独(よろこびの声を)・詩(図書新聞1035号) 伝統と革新―二・二六とアナキズム・対談(末松太平と) (読書新聞1521号) 岡陽之助「講談日本社会運動史」・書評(図書新聞1038号) 風俗化せぬ(現代思潮社「田木繁詩集」) 12月 アナキストの文学とアナキズムの文学(黒の手帖8号) 一九六九年―ある日・詩(週刊アンボ) 有本芳水・竹久夢二「野球美談」・書評(図書新聞1041号) 明治・大正・昭和(麦社通信4号) *太平洋戦争と詩人たち・解説(日本反戦詩集)

1970年1月 頂上・詩(コスモス3次20号) 死者たち(〃) 「朝鮮人」という言葉(朝鮮研究) 土岐善麿「啄木遺稿」・書評(図書新聞1044号) まんがと私(COM) 辻潤「絶望の書」・書評(ほるぶ新聞56号) 幸徳秋水全集9巻―日記―書簡―年譜―書評(図書新聞1045号) 流行歌「ゴンドラの唄」(読書新聞1530号) 山の彼方―青春論(たいまつ4号) 2月 孤独な情緒を越えて―青春論②(たいまつ5号) 人物スケッチ「伊藤信吉」(読書新聞1532号) 人物

スケッチ「田木繁」(読書新聞1534号) 遠く・近く(河出書房高橋和巳作品集7・月報) 和田久太郎「獄窓から」・書評(図書新聞1050号) 3月 人物スケッチ「井手文子」(読書新聞1536号) ニヒリズムとアナキズム(麦社通信6号) 青春よ、声たてよー青春論③(たいまつ6号) 対立・統合(構造)ニヒリズムとアナキズム2(麦社通信7号) 収穫・詩(びえろたNO・4) 「エロス十虐殺」大杉栄ーその現代に生きるもの(アートシアター14日号) 高神村事件(「我等のうちなる反国家」大平出版) 自分を生きた人・対談(瀬戸内晴美と)(学芸書林「伊藤野枝全集上」) 4月 「アナキストの文学」(麦社) 渋谷定輔「農民哀史」・書評(図書新聞1058号) 明日に向けて伊藤野枝を読むー全集刊行によせて・書評(図書新聞1059号) ニヒリズムとアナキズム④(麦社通信8号) 5月 ニヒリズムとアナキズム④(麦社通信9号) 「中野秀人散文自選集」・書評(図書新聞1062号) 固定教科書ブームと世相(エコノミスト) 花、その他たち・詩(処女地帯59号) いまも見ゆる・詩(〃) 選のあとに(全電通文化9日号) 風と土のけぶり・詩(辺境創刊号) 雲脂・詩(〃) 泥田・詩(〃) 社会的制圧と個人の自由について・講演(玉川大学哲学研究部) 6月 「黒島伝治全集」の刊行によせて・書評(読書人) 選のあとに(全電通文化) アナキズムを生きる・対談(多田道太郎と)(学芸書林

「伊藤野枝全集下」) アナボル論争・D(1) (黒の手帖) 7月 ニヒリズムとアナキズム⑤(麦社通信10号) 夢二「子供の世界」・「初恋のころ」・書評(図書新聞1069号) 幸徳・大杉・石川・解説(石川三四郎「評論集・虚無の靈光」三一書房) 竹久夢二「子供の世界」・書評(はるぶ新聞NO・74) 辻潤渡仏記念号(辻潤著作集月報5) 詩と権威主義ー中野の「無政府主義者」について(花園大学学生新聞) 解説(「大杉栄選・日本脱出記・獄中記」現代思潮社) 宮崎謙詩集について(宮崎謙詩集) 8月 松永伍一「日本農民詩史」・書評(読書人840号) 「雨情民謡百篇」・書評(図書新聞1075号) 9月 「近代の漂泊ーわが詩人たち」(現代思潮社) 転向のなかの自我ー現代の転向について(思想の科学) 記憶のなかのふるさと(看護学生) 赤いシャツのうた・詩(関西文学) 10月 森口多里「異端の画家」・書評(図書新聞1083号) 宇都宮貞子「草木ノート」・書評(はるぶ新聞81号) 小説の読者として(筑摩書房中里介山全集3巻月報) 公害は私害(思想の科学) アナボル論争・D(2) (黒の手帖) 11月 「発禁詩集」(潮文社) 新島栄治詩集「三匹の狼」・書評(図書新聞1088号) 花だいこん・詩(犯罪2号) 選のあとに(全電通文化) 日本アナキスト群像・対談(多田道太郎と)(展望) 12月 竹久夢二編「あやとりかけとり」(はるぶ新聞87号) 花田清輝「カフカ小品集」

1971年1月 『郷愁論ー竹久夢二の世界』(青林堂) 新年なんて(現代の眼) 高橋和巳対談集「生涯にわたる阿修羅として」によせて・書評(図書新聞1096号) 「土着」ということー言葉の危惧①(乱1号) 2月 梅本育子「梅雨のあと」ー吉田絃二郎の生涯 書評(はるぶ新聞NO・91) 反権力ー言葉の危惧②(乱2号) 和田軌一郎「ロシア放浪記」・書評(図書新聞1098号) 選のあとに(全電通文化1319号) 3月 わが著書を語る「郷愁論ー竹久夢二の世界」(出版ニュース) 玉川信明「評伝・辻潤」・書評(出版ニュース) たまらないから・詩(Fan) 沢清兵「褪色」ー異邦のコムニスト(読書人867号) 少数決ー言葉の危惧③(乱3号) 選のあとに(全電通文化1325号) 4月 玉川信明「評伝・辻潤」・書評(はるぶ新聞97号) 「憂国」とは?言葉の危惧④(乱4号) 5月

・書評(図書新聞1092号) 高橋和巳「内ゲバ論」への感想(エコノミスト)*The Six Yard Road(六間通路)・詩(英訳)(TRANS PACIFIC4) Spring In The Old Village(春・古里叙情)・詩(〃) The Pass(峠)・詩(英訳)(〃) Rain(雨)・詩(英訳)(〃) Early In Spring(早春) 詩(英訳)(〃) Hand Clapping Newsreel No. 173(拍手ーニュース第173号)・詩(英訳)(〃) No-on 1945(オノ)・詩(英訳)(〃) Horse Sleigh Hokkaido 1944(馬橇)・詩(英訳)(〃) 1971年1月 『郷愁論ー竹久夢二の世界』(青林堂) 新年なんて(現代の眼) 高橋和巳対談集「生涯にわたる阿修羅として」によせて・書評(図書新聞1096号) 「土着」ということー言葉の危惧①(乱1号) 2月 梅本育子「梅雨のあと」ー吉田絃二郎の生涯 書評(はるぶ新聞NO・91) 反権力ー言葉の危惧②(乱2号) 和田軌一郎「ロシア放浪記」・書評(図書新聞1098号) 選のあとに(全電通文化1319号) 3月 わが著書を語る「郷愁論ー竹久夢二の世界」(出版ニュース) 玉川信明「評伝・辻潤」・書評(出版ニュース) たまらないから・詩(Fan) 沢清兵「褪色」ー異邦のコムニスト(読書人867号) 少数決ー言葉の危惧③(乱3号) 選のあとに(全電通文化1325号) 4月 玉川信明「評伝・辻潤」・書評(はるぶ新聞97号) 「憂国」とは?言葉の危惧④(乱4号) 5月

安成二郎「夜知麻多」・書評(図書新聞1110号) 提案・コスモス賞(コスモス4次1号) 返事をするいるおんな・詩(〃) 玉川信明「評伝・辻潤」・書評(読書人574号) 言葉の危惧⑤ニヒル(乱5号) アナボル論争・D(3) (黒の手帖) 本との出会いー厨川白村「象牙の塔を出て」(はるぶ新聞15日) 斃れた大きな青春ー高橋和巳を語る義務(図書新聞1113号) 選のあとに(全電通文化) 6月 「詩入門」(三一書房) 書評について(PIC・著者と編集者) 大仏次郎「詩人」・書評(図書新聞1116号) アナキズムをたずねるー解説的に(「権力の拒絶」風媒社) 7月 辞さない態度ー高橋和巳について(現代の眼) 金子光晴「人非人伝」・「どくろ杯」・「新雑事秘辛」・書評(図書新聞1122号) 選のあとに(全電通文化) 8月 金子光晴「どくろ杯」「人非人伝」(読売新聞13日) 9月 啄木文学の軌跡を探る・対談(伊藤信吉と)(びえろた②啄木特集) なんでもベスト10ー現代人のためのバイブル・アンケート(週刊サンケイ) 元心昌のことー耳底に残る切言(統一朝鮮新聞503号) アナキスト・和田久太郎・解説(「獄窓から」幻燈社) 10月 大牧富士夫他「越中谷利」・書評(図書新聞1131号) 有島武郎「ホイットマンに就て」・書評(図書新聞1133号) 性と自由について(思想の科学) 選のあとに(全電通文化) 小宮隆弘君の詩・書評(現代詩謡) 昭和期アナキズム運動の軌

跡・対談(相澤尚夫と)(乱7号) 11月 『幸徳・大杉・石川』(大沢正道共著)(北日本出版社) 過激派(展望) 「ジョーヒル」・IWWの闘士を描く(映画評論) 復刻について(図書新聞1138号) 選のあとに(全電通文化) 職場サークルへの提言(〃) 豊饒な生き死に(私のユートピア)(レアリテ・ダイヤモンド社) 12月 ヒッピーといえ(乱8号) 小崎軍司「林俊衛」・書評(図書新聞) 思い出デント郷愁(チンタ2号) 同人意識(コスモス4次2号) 朝にかけての団欒・詩(〃) 「シュルレアリスム」と大衆(〃) 雑誌―感想ダイレクションNONO・45について(ダイレクションNONO・46) 12月 植物うた・詩(鯉3号) *和田英子第1詩集「みじかい飛翔」・書評(Gグループ特別号)

1972年1月 わが祖父(歴史と人物) 埋もれた婦人運動家(1) 宮嶋麗子(婦人公論) 金子光晴―人物交差点(中央公論) アンチ・シンボリックに(グラフィケーション14) ヒッピーといえ(乱8号) 大田雅雄「大正デモクラシー論争史」・書評(ほろぶ新聞124号) 内村剛介「ソルジェニツィン・ノート」(朝日ジャーナル28日号) 2月 美人画論(芸術生活) 森長英三郎「山崎今朝弥」・書評(図書新聞1150号) わが暴力考(幻野) 3月 北一輝を考える(ピエロタ⑩) 小田実「生きつづける」ということ・書評(朝日ジャーナル10日号) アナキズム―明治期の4冊(図書新聞

自由さ・積極さ(瀬戸内晴美作品集6巻筑摩書房) 安田武「心驕れる」・書評(北海道新聞1082号) 性の年齢・対談(金子光晴と)(思想の科学) 9月 近代の義理人情が世を渡る(公評) 瀬戸内晴美「余白の春」・書評(読書人942号) 文学報国会名簿に思う(図書新聞1177号) 私害の敵であれ! (「乱」改め「R」) 平林たい子「宮本百合子」・書評(図書新聞1180号) 10月 戸板康二「折口信夫坐談」・池田弥三郎「私説折口信夫」・書評(週刊読売) 富士正晴「往生記」・書評(図書新聞1183号) 選のあとに(全電通文化) さすらいの思想(朝日ジャーナル) 11月 『文学の自己批判』(再版)(大平出版) 茂木一次「大逆事件のリーダー」・書評(図書新聞1187号) 花―三つ・詩(コスモス4次4号) 「コスモス」を否定(〃) コスモス27年(〃) 金子ふみ子「何が私をかうさせたか」の復刻に寄せて・書評(読書新聞1677号) 梅原猛「笑いの構造」・書評(週刊読売) 堀木正路「私的金子光晴論」・書評(出版ニュース) 向井孝他「日本反政治詩集」・書評(読書新聞1723号) V・シクロフスキー「革命のベテブルグ」・書評(朝日ジャーナル) 連合赤軍事件(一)講座・コミュニケーション5」研究社) アナボル論争・E(一)(黒の手帖) はるかなる叛逆―天龍(経済評論別冊) 12月 トルストイのアナキズム(トルストイ全集16巻・月報)

1154号) イワシのジンダ煮(読売日曜付録) 詩をつくる人のために(全電通文化) 4月 市井三郎・布川清司「伝統的革新思想論」・書評(東京新聞3日夕刊) 近藤憲二「私が見た日本アナキズム運動史増補版」・解説 石垣綾子のさらばわがアメリカとさらばわが日本(図書新聞) 北川太一「高村光太郎資料」第1集・書評(図書新聞1159号) 芸術選奨・金子光晴(えにしだNO・3) 5月 テロリズムとヒューマニズム(黒の手帖) 詩集のあとに(「高島洋詩集」あとがき) 「詩は自分のために書く」という立場から・選のあとに(全電通文化82) 義理・人情は自分の中で殺せ(〃) 自称アナキズムということ(乱10号) 飢とコムミュン(闇一族3号) 外骨・その反権力の原像(「宮武外骨」著作集V太田書房) 「さすらい」のうた(思想の科学) 「死刑台のメロディ」サッコルヴァンゼッティ事件の回想(映画評論) 6月 森戸辰男「思想の遍歴」上・書評(図書新聞1166号) 戦中・戦後(ユリイカ) 「朝鮮植民者」を読んで・書評(社会新報1536号) 猥褻を縛る(えろちか36号) 7月 「戯詩」の友へ、「戯語」の作者から(コスモス4次3号) 小野十三郎「千客万来」・書評(図書新聞1170号) 鳥谷部陽太郎「大正崎人伝」(図書新聞1171号) 8月 吉田精一「高村光太郎の人間と芸術」(図書新聞1174号) ジョージ・ウッドコック「オーウェルの全体像」・書評(朝日ジャーナル11日号) あ

1973年1月 権力から自己を分離す―人間にとって「自立」とは何か(朝日ジャーナル) 村雨退二郎「明治版窟王」・書評(図書新聞1197号) 今年の執筆予定・アンケータ(出版ニュース) 2月 棕鳩十「地に棲む記録」・書評(北海道新聞) 3月 返されてきた原稿―高群逸枝の全集をめぐって(図書新聞1206号) 壺井繁治詩的散文集「奇妙な洪水」・書評(読書人970号) 4月 軍事才能の不安―トロッキー(「革命は如何に武装されたか」赤軍建設の記録II付録) 高群逸枝とアナキズム・講演(婦人民主新聞1338号) 逃亡の弁(コスモス4次5号) 少女・詩(〃) 桑島玄二「兵士の詩」・書評(図書新聞1210号) 石原吉郎「望郷と海」・書評(現代の眼) ももいろの海底(婦人公論) わが思いを独自にとらえよ(全電通文化) 5月 対談(秋田明大と)(無尽創刊号) アナボル論争・E(2)(黒の手帖) 6月 「自由おんな論争」(思想の科学社) 『反逆の信條』(北冬書房) 『あるアナキズムの系譜―大正・昭和のアナキスト詩人たち』(冬樹社) 対談集「佇む心やさしき反逆」(海燕書房) 選のあとに―自分で納得のゆく表現を(全電通文化) 芸術革命と革命芸術―詩とアナキズム・対談(小野十三郎と)(図書新聞) 金子光晴「天邪鬼」・書評(読書982号) 古い写真(宮崎護詩集「ちいさなちいさな」のちたちの歌) 丸岡秀子「田村俊子とわたし」(図書新聞1216号) 7月 橋川文三「順逆の思想」

・書評(図書新聞1220号) 8月 宮田正平「路の塔」・書評(コスモス4次6号) 命尾小太郎「鶴彬の記録」1巻・書評(図書新聞1225号) 9月 作品評(亡羊3号) 大杉栄とアナキズム①「思想史を歩く(朝日新聞17日) 大杉栄とアナキズム②「思想史を歩く(朝日新聞25日) 夢と郷愁の詩人・夢二(東宝公演「宵待草」プログラム) もう一度「詩」を考えよう(全電通文化) 大杉栄死して半世紀「彼がもし生きていたら(読売新聞夕刊) 天皇制国家とアナキズム(「われらの内なる天皇制」大平出版) 10月 大杉栄とアナキズム③「思想史を歩く(朝日新聞1日) 『秋山清詩集増補決定版』(現代思潮社) 大杉栄とアナキズム④「思想史を歩く(朝日新聞8日) わが青春との出あい―大杉栄「自叙伝」・解説(中央公論) 選のあとに(全電通文化) 安成二郎「無政府地獄」・書評(図書新聞1234号) 11月 後日の感想―高群逸枝のアナキズムをめぐって(思想の科学) 生活者としての感想(朝日ジャーナル) ^文学以前^による文学の反省―大杉栄に即して―問題提起(日本文学協会第28回大会) 選のあとに(全電通文化) 「喜多二」であった「鶴」のこと(川柳「東」NO・19) 「大杉栄の旅」小感(1) (黒の手帖) 12月 私の「スペイン革命」(グラフィケーション) 金子光晴「ねむれ巴里」・書評(読書人1008号) 新居格「月夜の喫煙」(図書新聞1240号) 新居格「区長日記」(図書新聞

聞1241号) 非権威非強権非政治の新居格(図書新聞1242号) 小海永二「日本戦後詩の展望」・書評(出版ニュース) 秘密兵器はヌカミソ―ふるさとの味(福岡) (食生活) 象のはなし・詩(戦争児童文学文庫9)

1974年1月 沼津を訪う・題を忘れた絵(金井新作詩集) 2月 田木繁「釣狂記」・書評(図書新聞1248号) 伊藤信吉・佐藤房儀「萩原朝太郎全書簡集」・書評(図書新聞1251号) 酒井真石「百舌ばっつけの青春」・書評(北海道新聞) 3月 「わが心のバック・ミュージック」(青娥書房) 選のあとに(全電通文化) 「新短歌への希望」に答える・アンケート(芸術と自由) 大杉栄と文学・講演(日本文学VOL・23) 4月 「国民」春闘の実感(東京新聞夕刊) 小熊秀雄のこゝと(三彩316号) アナキズム文学史(文芸展望) 鈴木均「天皇と共産党と日本人」・書評(週刊エコノミスト) 日共的文学観への疑念(流動) 5月 子母沢寛「ふところ手帖」・書評(図書新聞1262号) ニヒリズムそしてテロリズム(思想の科学) 幻想さえも(道) 6月 地獄変相6月29日・詩(ユリイカ) 無政府共産党覚書(海燕通信NO・3) それらしき風情―女の色彩と私の解釈(公評) わが心の自由(京都新聞・愛媛新聞) 「大杉栄の旅」小感(2) (黒の手帖) 7月 フェレル「近代学校」・書評(図書新聞1273号) 桐の花には思い出がある・詩(新潮) 三

つの自叙伝「壺井繁治「激流の魚」・岡本潤「詩人の運命」・小野十三郎「奇妙な本棚」・書評(読書人) 四月と五月―私の詩人往来(ちくま) あるフィクション(現代の眼) 芸術至上主義よ(小倉三郎歌集あとがき) 8月 今井泰子「石川啄木論」・書評(図書新聞1277号) 9月 彼の筑波山(「飯野農夫也版画集」付録) 渋谷定輔「大地に刻む」・書評(北海道新聞) あとがき一つ(吉田欣一詩集「わが射程」) 凶々しき日々―爆破事件という現実の中で(東京新聞夕刊9日) 安成二郎さんの歌の三態(素面54号) わが大正(公評) 10月 松永伍一「農民詩紀行」(東京新聞) したたかな不同調精神―竹久夢二と関東大震災(芸術生活) 松本健一「風土からの黙示」・書評(流動) 編集後記―あとがき(「アナキスト詩集」海燕書房) 放蕩も結婚まで(月刊ペン) 11月 「人間」の不足について―かわった詩集のこと(コスモス3次10号) 「大杉栄の旅」小感(3) (黒の手帖) 絶対自由主義者の系譜―アナ・ボル論争にみる大正の社会主義(流動) 選のあとに(全電通文化) 夢二郷愁―敗戦の年に生まれた「夢二外遊記」に襟正しつつ(図書新聞1286号) 深川木場(住宅画報) 早稲田大学社会科学研究所編「社会主義者の書簡」・書評(朝日ジャーナル) 山陽・文学の旅―竹久夢二のふるさと(「美しい日本の旅・中国の巻」学研) 12月 「壺中の歌」(仮面社) ささやかな回想(新日本文学)

1975年1月 近ごろの「夢二」の本(サンケイ新聞) 流行はくり返すか?―三十年代の憂愁(グラフィケーション) 選のあとに(全電通文化) わたしの「家庭」論(〃) 現代を動かす人と思想―高群逸枝(毎日新聞) 玉川信明「中国―アナキズムの影」・書評(朝日ジャーナル) 夢二紀行(図書新聞1294号) 2月 恋愛詩集(天象儀1号) ある「石原莞爾」論(「一億人の昭和史」毎日新聞社) 夢二についての本(上)(図書新聞1301号) 3月 夢二についての本(下)(図書新聞1303号) 一九三〇年代より・講演(「反ファシズムと文学」無尽3号) 4月 覚悟はまだかいな(詩の特集) 春山行夫「季節の手帖」・書評(自由論壇1号) ある孤独・詩(三池文学NO・28) 他をいうにあらず・詩(〃) さわやかな空間・詩(〃) 大杉栄研究会編「大杉栄書簡集」・書評(朝日ジャーナル) 生田春月「詩魂礼讃」・書評(図書新聞1310号) 言葉の不安(塞外) 高群逸枝におけるアナキズム(無政府主義研究4号) 5月 正岡容「雲石衛門以後」・書評(図書新聞1315号) 6月 私はこう見る(価値ある情報6号) 選のあとに(全電通文化) ある「餓け」・序(田村正敏詩集) 朔太郎とニヒリズム(ユリイカ) 一九三〇年代と今日(公評) 7月 夢二の詩(本の手帖) 重い彼方・詩(コスモス50号) 花のコスモス(〃) 8月 選のあとに(全電通文化) 9月 「アナキズム文学史」(築筑書房) 金子光晴を悼

む(婦人公論) 思い出すこと(現代詩手帖) 佐藤治助「ワッパ一揆」・書評(北海道新聞) 目立たぬ航跡―壺井繁治との永いつきあい(読書人1098号) 「猥談」―約束のしっぱなし(面白半分) 金子光晴葬儀の弔辞(〃) 「大杉栄の旅」小惑(4) (黒の手帖) 10月 反戦川柳人鶴彬の記録と一叩人命尾小太郎(新日本文学) 女・母(赤ちゃんとママ) おっとせいの姿勢(金子光晴全集2巻・月報) 選のあとに(全電通文化) 海辺の農村(「講座農村を生きる5」・月報・三一書房) 後記(金子光晴全集2巻) 夢二と大杉(展望) 逆テロルへの黙示・対談(鷹赤児と) (無政府主義研究) 11月 詩人壺井繁治論―誰が書くだろうか(詩人会議) ある讚美―夢二の人柄について(シナリオ) 夢二生家(本の本創刊号) はるかなるオンチの弁(桃之天天) 執筆者通信・アンケート(読書人11107号) 12月 コスモスと壺井(コスモス4次12号) 大正の人・夢二―自由における恋愛(本の本) 選のあとに(全電通文化103号) 「鮫」のはなし他(「金子光晴追悼号」あいなめ)

1976年1月 なぜ、戦争責任か(公評) 夢二の詩について(別冊週刊読売) 竹久夢二―恋と漂泊の生涯(〃) 小さな野口清子論(野口清子詩集「出逢い」あとがき) 新しい女(としての伊藤野枝と山川菊栄(一億人の昭和史) ズボンをくれた尾形亀之助(「尾形亀之助」6号) 2月 選のあとに(全電通文化104号) 3

月 野紙に書かれた手記 古田大次郎「死の懺悔」を見る(「日本近代文学館」30号) 地面の花(山陽新聞26日) 夢二芸術の背景(夢二名古屋展のパンフレット26日) 後記(金子光晴全集5巻) 4月 「わが夢二」(北冬書房) まだ解明されていない「赤と黒」(本の本) 要領よく全貌をとらえる(図書新聞1318号) 三十年目の祝辞(新日本文学30年記念特集) 5月 さくらの詩のこと 高村光太郎―その精神の核(文学・解釈と鑑賞) 人間性の全的解放者―梅原北明復興(図書新聞8日号) 田園の子 夢二(毎日新聞13日) 動乱の昭和五十年の回想記 大塚有章「未完の旅路」(読書新聞17日) 季節の雑話―N子とともに・詩7編(小公園、にんにく、ふるさと、虚空、武蔵野茶寮、この春、さかい目) (黒の手帖20号) 6月 選のあとに(全電通文化106号) だれのために詩を書く(中日新聞24日夕刊) 7月 「発禁詩集」(新装版) (潮文社) 夢二展からの感想(桃之天天) 自分貫ぬいて思い出も豊か(図書新聞3日号) 高良留美子「高群逸枝とボーヴォワール」・書評(出版ニュース) 代訳・金子光晴(金子光晴全集付録) 8月 近代など信じない(現代の眼) 橋本勝三郎「萩原恭次郎」を讀んで(全電通文化107号) 文芸選考経過(〃) 選評(〃) 終わりなき青春への道標(公評) 9月 逸見吉三「墓標なきアナキスト像」・書評(東京新聞11日) ニヒルの俎上(コスモス4次14号) 後記(金子

光晴全集・5巻) 男と女の開かれた関係(1) (アナキズムNO・12) 10月 選のあとに(全電通文化) 埴谷雄高とアナキズム(思想の科学) 北沢恒彦他「朋あり遠方より来る」・書評(朝日ジャーナル15日号) その愛と詩と絵の世界をたずねて(ヤング・レディ26日号) 11月 逸見吉三「墓標なきアナキスト像」・書評(週刊ポスト5日号) 文学的立場編「戦争中をこう生きた」・書評(北海道新聞9日) 中野重治における抒情の解放(図書新聞20日号) 金井新作論(1) (黒の手帖21号) 12月 「大杉栄評伝」(思想の科学社) 一度きり会った蟹江真人(コスモス4次15号) 薄っ原、眉間、エゴの花散る、火星の虫・詩4篇(磁場10号)

1977年

1月 人間の自立精神の確立と行為(読書人17日号) 男と女の開かれた関係(2) (アナキズム) 「健全なる精神」を問う(公評) まえがき(大場豊吉詩集) 後記(金子光晴全集15巻) 遠い親せき(短歌時代) 2月 たとえ不道徳といわれようと(新しい女性) 富沢赤黄男全句集・書評(図書新聞19日) 詩選(全電通文化) 男と女の開かれた関係(3) (アナキズム14号) 3月 漂泊・京都・詩―夢二について(京都) 忘我・詩(プラタナス創刊号) 4月 「恋愛詩集」(冬樹社) 村山知義氏回想(図書新聞9日号) 西杉夫「プロレタリア詩の達成と崩壊」・書評(読売新聞18日) 反骨流亡・詩(コスモス4次16号) 壺井繁治

「老齡詩集」・書評(〃) 雨情と夢二(枯れすすき) 過失、赤とブルー・詩2篇(三池文学) 推薦の言葉(石川三四郎著作集) 5月 「わが暴力考」(三一書房) 選評(全電通文化111号) 今年もライラック・詩(コスモス4次17号) 回想と展望・解説(押切順三詩集) ある犯罪論(新劇) 色のない犬・詩(プラタナス2号) 「意見書」の明文(兼民研究) 男と女の開かれた関係(4) (アナキズム15号) 6月 「ニヒルとテロル」(新版) (泰流社) わが解説(1) (幻野13号) 雑草感嘆(本) 雑談一つ(雑談) 小林登美枝「平塚らいてう」・書評(図書新聞11日号) 金井新作論(2) (黒の手帖22号) 8月 右翼と左翼のあいだ・対談(末松太平と) (第三文明) 竹久夢二(はるぶ人名辞典) 選評(全電通文化) 内村剛介「ロシア風物誌」・書評(読書人1195号) 9月 冬一日・詩(雑談) 詩と陶―伊藤正斉小惑(無尽蔵2号) やっと出た「鶴彬全集」・書評(毎日新聞29日) 著者と編者と読者(鶴彬全集付録) あおぞらと未明さん(小川未明童話集12巻月報) 男と女の開かれた関係(5) (アナキズムNO・16) 10月 「孤立」(本郷出版社) 『啄木と私』(たいまつ社) 竹久夢二と恩地孝四郎・対談(恩地三保子と) (図書新聞1日号) 私の原風景(スバル) 竹久夢二とその時代(第三文明) 反戦川柳人・鶴彬のこと(北海道新聞12日夕刊) 「鶴彬のこと」・講演(はつきり172号・

173号) 青春の土の匂い竹久夢二・対談(森本哲郎と)(週刊ポスト28日号) 詩の部(全電通文化113号) 選評(〃) 片目をすこうし(磁場・夏号) 国賊と恋愛の神様(アナキズム・秋号) 11月 「優し過ぎる回想」・書評(図書新聞) 石川三四郎著作集8・自叙伝・書評(信濃毎日) 12月 『わが大正』(第三文明社) 「詩は自分のために書く」・講演(全電通文化) 選評(〃) 習慣について考える(公評) ととなり、痛めた膝・詩2篇(方方)

1978年1月 わが解説(2) 一象のはなし(幻野14号) 餓えたる狼(花田清輝全集6巻・月報5) 「小熊秀雄全集」全6巻に寄せて一・二・六事件を詩に・書評(図書新聞28日号) 2月 山紫水明(展望) 辻まことを発見した(図書新聞11日号) 選評(全電通文化115号) はるかに金子文子を(三千里13号) 3月 詩人岡本潤の足跡(図書新聞4日号) 詩人・岡本潤の死(サンデー毎日12日号) 申庚林詩集「農舞」・書評(図書新聞18日号) 魅せられるふかさー帰って来た夢二(「光明」真言宗豊山派布教雑誌) 男と女の開かれた関係(6) (アナキズム16号) 4月 「夢二とその時代」(第三文明社) 故・岡本潤(文芸) 岡本潤全詩集(新日本文学) 大杉栄「自叙伝」の感銘・書評(図書新聞8日号) あんせ・詩(第三文明6号) 選評(全電通文化116号) 5月 詩集「季節の雑話」(創樹社) 晩歌・詩(コスモス4次19号) 人

民詩精神(〃) 後記(〃) 政治と文学再考(図書新聞13日号) 民族の息吹きを雨情の詩に・講演(野口雨情詩の夕べ13日) わが家の夕めしー日曜に皆そろって(アサヒグラフ26日号) 6月 プロレタリア詩運動の軌跡・対談(伊藤信吉と)(図書新聞7日号) 選評(全電通文化117号) 男と女の開かれた関係(7) (アナキズム) 「弾道」・解説(プロレタリア詩雑誌集成上) 「クロボトキンを中心にした芸術の研究」(〃)

7月 「夢二は旅人ー未来に生きる詩人画家」(毎日新聞社) 林俊衛をかんがえる(思想の科学) 雑誌がつなぐー前衛から現代芸術への道(東京新聞26日夕刊) 草野心平全集16巻・書評(図書新聞29日号) あとがき(松永浩介「戦時通信」) 8月 たより・詩(筆名・直方十郎)(コスモス4次20号) 寺島珠雄「情況と感傷」の印象・書評(〃) 家路を辿る・詩(〃) 作品評あとがき(〃) 後記(〃) 選評(全電通文化118号) あとがき(「内田博全詩集」) 後記(岡本潤全詩集) 9月 大震災と大杉栄の死の記念ー「日本脱出記」・書評(図書新聞16日号) 夢二の詩について・講演(岡山市両備バスKK社内報179号) 10月 二つの「夢二の会」(エコノミスト10日号) 「新興文学全集第10巻」 書評(図書新聞14日号) 墨をすって(婦人公論) 男と女の開かれた関係(8) (アナキズムNO・19) 解説・編集後記(岡本潤全詩集) 11月 アメリカン・デイク〇挽歌(「雑談」

1日号) 選評(全電通文化119号) 詩の都(〃) 黒い爪をさしあげて(コスモス4次21号) アメリカン・デイクの花(〃) 後記(〃) 詩人ということ(〃) 並木の花(エコノミスト21日号) 「詩精神」の意味(プロレタリア詩雑誌集成中) いまや完成の詩人(日本の詩13巻・小野十三郎集) 12月 春蟬・詩(うむまあ13号) プロレタリア詩のエポック(中野重治全集22巻・月報21) 選評(全電通文化120号) わが解説(3) ー遠地輝武君に面会(幻野16号) *玉川しんめい「日本ルネッサンスの群像」・書評(読書人) 編集に当って(プロレタリア詩雑誌集成全3巻別巻) ビラ・詩(解水期ー岡本潤追悼号) 回想の向うの石川さん(石川三四郎著作集5巻付録) 竹久夢二(世界伝記大辞典(日本他篇)ほるぷ出版) あとがき(暮尾淳詩集「めし屋のみ屋のある風景」)

1979年1月 佐渡谷重信「評伝・有島武郎」・渡辺凱一「晩年の有島武郎」・書評(図書新聞13日号) 忘れがたい一冊「アメリカカプロレタリア詩集」(図書新聞20日号) 2月 秋・詩(コスモス4次22号) 作品の批評(〃) 年末(〃) 編集後記(〃) 選評(全電通文化121号) 4月 「萩原恭次郎全集」(コスモス4次23号) 編集後記(〃) 「一兵士の戦中通信」の会(〃) 片すみの経験・詩(〃) おまえのそれ・詩(〃) 萩原恭次郎全集全3巻のこと(図書新聞21日号) 選評(全電通文化122号) 5月 案内・詩(雑誌11

号) 鶴彬のこと①・講演(鶴彬研究2日) 6月

『竹久夢二』(新装版)(紀伊国屋書店) 武蔵野のにおい(武蔵野路NO・7) 選評(全電通文化123号) ハレー彗星を見た(「ゴムの惑星」ロイヤル天文同好会誌) 現実には戦争に敗れる(「軍事民論」NO・16三二書房) 権力と戦争と(「第三文明」8号) プロレタリア文学の中の「詩人」の位置(プロレタリア詩雑誌集成下) 「詩行動」の時期(〃) ラディヤード・キップリング「どうしてそんなに物語」・書評(図書新聞23日号) 7月 わが解説(4) ー「詩行動」をめぐる回想(幻野17号) あとがきー末繁博「詩集」家その前後(「駒込書房」高木護「人夫考」・書評(北海道新聞10日号) こんな経験・詩(コスモス4次24号) 後記(〃) 詩碑(〃) 荒畑寒村「寒村茶話」・書評(図書新聞28日号) 8月 『目の記憶』(筑摩書房) 『あとがき詩人論』(青磁社) 国会前の民衆を襲った鉄兜の群れ(朝日ジャーナル17日号) 選んだ理由(全電通文化124号) 選評(〃) 岡本綺堂「青蛙堂綺談」他(図書新聞18日号) 花田清輝全集第1巻・初期作品集・書評(週刊ポスト24日号) 9月 中野重治の死(図書新聞8日号) 五五年と七九年・詩(コスモス4次25号) 河合、吉田、伊藤(〃) 反・省エネ(〃) 後記(〃) 10月 編集後記(コスモス4次26号・中野重治記念) ああ、中野重治(婦人公論) 雨情さんのことども(「枯れすすき」6

号) 氏郷の辞世(短歌現代) 詩と政治と—中野重治の死(社会新報2273号) 11月 選評(全電通文化125号) 特級酒ともしそば(文芸) 12月 「詩」のことばかり(「中野重治、人とその全仕事」新日本文学) 民謡は「郷愁のうた」(「二億人の昭和史」別冊「日本民謡史」毎日新聞社) 虎ノ門病院・詩(コスモス4次27号) 夕焼けと山茶花(〃) 編集後記(〃) バクーニンとクロボトキン(人類の知的遺産「バクーニン」付録・講談社) わが解説(5) 詩行動の方法B(幻野18号) *萩原恭次郎・雑駁—ようやく全集が出る(ユリイカ5号) 変革とニヒリズム—萩原恭次郎・小野十三郎について(「日本の詩」16巻・集英社)

1980年1月「有島武郎全集」・書評(図書新聞11日号) 荒畑寒村「続平民社時代」・書評(図書新聞19日号) 選評(全電通文化126号) ある未完とある完成—中野重治について(「現在」駒込書房) 2月 私の朔太郎観・講演(萩原朔太郎研究会会報) 編集後記(萩原恭次郎全集第1巻・静地社) 思い出—萩原恭次郎(〃付録) 3月 『やさしき人々—大正テロリストの生と死』(大和書房) 赤っぽい土屋・詩(コスモス4次28号) 雑と雑(〃) 「コスモス」の感想(〃) 編集後記(〃) 選評(全電通文化127号) 正岡容「雲石衛門以後」(図書新聞29日号) 4月 「萩原恭次郎全集」の刊行(神戸新聞15日) 青春の詩人—性急な一生(短歌現代) 二度見るハレー彗星(毎日新聞30日夕刊)

1980年1月 隣国—眼高一八一、九、二五・詩(幻野22号) 離—書評(文学学校) 10月 大吉・詩(コスモス4次35号) 坂本遼・詩集「たんぼぼ」(〃) 選評(全電通文化136号) 12月 清澄に誘われる(毎日新聞18日) 選評(全電通文化137号)

1982年1月 若草山・詩(雑談19号) 宮沢賢治とその時代・対談(長谷川龍生と) (図書新聞1日号) 中村文雄「大逆事件と知識人」・書評(図書新聞) 2月 秋の脱帽(コスモス4次36号) 能登・詩(〃) オジンの壁・詩(〃) 選評(全電通文化138号) 3月 喜寿で再婚した私のアナキズム(婦人公論) 4月 選評(全電通文化139号) 不自由と自由について(アナキズム20次20号) てなこと(反吐改題)・詩(雑談20号) せり、なずな・詩(コスモス4次37号) 編集後記(〃) 5月 あとがき—発禁復刻及び総合雑誌の詩 6月 選評(全電通文化140号) 与謝野晶子—私の白桃忌(社会新報) 法政大学大原社会問題研究所編「大阪労働学校史」・書評(図書新聞26日号) 7月 十三湖・詩(コスモス4次38号) 戯評「伊良湖抄」(〃) 西脇さん(〃) 編集後記(〃) 風景とプロレタリア詩(1) (幻野23号) 8月 川柳の可能性をさぐる・講演(川柳展望30号) 選評(全電通文化141号) 9月 解説(田木繁全集3巻) 10月 あとがき(六井洋子詩集「積乱雲」) 11月 選評(全電通文化142号) 松・詩(コスモス4次39号)

1981年1月 神戸・詩(社会新報1日) 青春と啄木(図書新聞1日号) 読書日録—二月三日(読書人28日号) 2月 柿の季節・詩(コスモス4次32号) 後記(〃) 人民詩精神について(〃) 良い友だち・詩(社会新報10日号) 読書日録—二月九日(読書人23日号) 選評(全電通文化132号) 今後も成長に期待(〃) 読書日録—二月十六日(読書人2日号) 姫田忠義「樹木風土記」・書評(読書人) 萱野・詩(社会新報) 黒川芳正詩集「言霊」・書評(読書新聞30日号) 4月 花について・詩(社会新報10日号) 選評(全電通文化133号) 水郷・詩(コスモス4次33号) 5月 藤一也「詩人石川善助」・「石川善助作品集」・書評(図書新聞16日号) 末日・詩(方方) そういうこと・詩(〃) 熟考・詩(〃) 怪奇「ツイゴイネルワイゼン」(日本映画研究NO・4) 荒畑寒村さん(本) 男と女の開かれた関係(9) (アナキズム21号) 6月 内田博を考える(短歌現代) 裸木・詩(雑談NO・17) 選評(全電通文化134号) 雑まったり・詩(コスモス4次34号) 向井孝編集のあるアンソロジー(〃) 犬・詩(〃) 近ごろ桜は(大法輪) 大杉栄と自由恋愛・講演(自由人講座) 7月 わが解説(8) —白い花前後(幻野21号) 「日本人の自伝⑧」大杉栄・古田大次郎・解説他(平凡社) 8月 室生犀星の詩について・講演(つぶしNO・4) 選評(全電通文化135号) 9月 吉田欣一「わが別

1980年1月 隣国—眼高一八一、九、二五・詩(幻野22号) 離—書評(文学学校) 10月 大吉・詩(コスモス4次35号) 坂本遼・詩集「たんぼぼ」(〃) 選評(全電通文化136号) 12月 清澄に誘われる(毎日新聞18日) 選評(全電通文化137号)

1982年1月 若草山・詩(雑談19号) 宮沢賢治とその時代・対談(長谷川龍生と) (図書新聞1日号) 中村文雄「大逆事件と知識人」・書評(図書新聞) 2月 秋の脱帽(コスモス4次36号) 能登・詩(〃) オジンの壁・詩(〃) 選評(全電通文化138号) 3月 喜寿で再婚した私のアナキズム(婦人公論) 4月 選評(全電通文化139号) 不自由と自由について(アナキズム20次20号) てなこと(反吐改題)・詩(雑談20号) せり、なずな・詩(コスモス4次37号) 編集後記(〃) 5月 あとがき—発禁復刻及び総合雑誌の詩 6月 選評(全電通文化140号) 与謝野晶子—私の白桃忌(社会新報) 法政大学大原社会問題研究所編「大阪労働学校史」・書評(図書新聞26日号) 7月 十三湖・詩(コスモス4次38号) 戯評「伊良湖抄」(〃) 西脇さん(〃) 編集後記(〃) 風景とプロレタリア詩(1) (幻野23号) 8月 川柳の可能性をさぐる・講演(川柳展望30号) 選評(全電通文化141号) 9月 解説(田木繁全集3巻) 10月 あとがき(六井洋子詩集「積乱雲」) 11月 選評(全電通文化142号) 松・詩(コスモス4次39号)

「コスモス雑記」註(〃) 編集後記(〃) 明日の
今日・詩(雑談22号) 追想・内田博(煙44号内田
博追悼特集) 田木繁全集(社会新報30日号) 12月
選評(全電通文化143号)

1983年1月 風景とプロレタリア詩(2) (幻野24号) 2
月 あの頃の歌(短歌45首) (雑談23号) 朝・詩
(コスモス4次40号) 中野秀人の「魅せられた樹」
について(〃) 〃左手とクレヨン〃 木原君の画展(〃)
編集後記(〃) 林えり子「愛せしこの身なれど」
(図書新聞12日号) 山崎今朝弥著・森長英三郎編
「地震・憲兵・火事・巡査」・書評(読書人21日号)
選評(全電通文化144号) 詩の部(〃) 3月
「関東大震災の時の夢二」など(京都芳演) 夢二が愛
した人(民芸「大正さすらい人」宣伝パンフレット)
4月 選評(全電通文化145号) 5月 くらしと風
景(風景とくらし) 宮島資夫著作集(図書新聞) 6
月 幼いうた、他(短歌66首) (雑談25号) 〃左
手とクレヨン〃の木原君の画展(〃) 選評(全電通文
化146号) 森長英三郎氏追悼(図書新聞18日号)
尾崎佐永子「竹久夢二抄」・書評(図書新聞) 編集
後記(コスモス4次41号) あいらしい孫・詩(〃)
7月 「宮島資夫著作集」全7巻の刊行によせて(読
書人18日号) 大江満雄・小田切秀雄監修「新井徹の
全仕事」刊行によせて(毎日新聞4日) 8月 選のあ
とにー今日の感想(全電通文化147号) 9月 さい

後のうた(短歌56首) (雑談26号) 「新井徹の全
仕事」(図書新聞3日号) 今、短歌などについて(コ
スモス4次42号) 編集後記(〃) あとがき(向井
孝詩集) 「亀戸事件」から六〇年と「久さん伝」(読
書人19日号) わが解説(9)ーおれのために私は書
く(幻野第25号) 11月 大杉栄とその時代・対談
(瀬戸内寂聴と) (図書新聞5日号) 12月 刺客・詩
(コスモス4次43号) ひとりということ(〃) *岩
田宏編「野村吉哉作品集ー魂の配達」・書評(図書新
聞)

1984年1月 広瀬武夫全集上・下・書評(図書新聞1日号)
忘れたい竹久夢二との出会い(ほるぶ新聞1日) 3
月 歌集「冬芽」(山崎書店) 恩地孝四郎編「夢二ス
ケッチ手帖抄」・書評(図書新聞17日号) 消息(コ
スモス4次44号) 4月 短歌の夢二(運河) 婦人
戦線復刻に寄せて(図書新聞14日号) 部屋のがめ・
詩(幻野26号) 活動写真「巴里の女性」・詩(〃)
数篇の詩(〃) 6月 盆地・詩(コスモス4次45
号) 後記(〃) 名作のふるさと(しゃち) 鼎談・
大地の慟哭(アナキズム25号) 9月 「秋山清自選
詩集」(秋山清八十の会) 編集後記(コスモス4次4
6号) 11月 夢二は、やさしく広い(学校図書館ニュー
ス) 12月 「それらしき風情」についてー1974改
稿(幻野) 豆本、「新島栄治のこと」(コスモス4次
47号) 「萩原恭次郎」(講談社「文芸辞典」)

「村松正俊」(〃)

1985年1月 プロレタリア詩回想(文学) 思い出すままに・
対談(小野十三郎と) (〃) 朝焼け・詩(別冊婦人公
論) 4月 八十の妖々・桃山晴衣のこと(雑談) 棟
田博「昭和浪漫物語」・書評(読書人15日号) 10月
未完の伝記(彷彿月刊) ポスター・詩(コスモス4
次50号) 編集後記(〃)

1986年 2月 「猪狩満直全集」・書評(図書新聞15日号)
4月 「昼夜なく」(筑摩書房)

(注)『』は自著。*は発表月不明。

著作目録・あとがき

秋山雁太郎

この目録は、秋山清が坂井貞の協力のもと
に、一九七五年まで作成しかけてあったもの
に、その死後に残されたスクラップブックや
雑誌など手近にある資料から秋山雁太郎が家
族の協力を得て補充し、まとめたものである。
限られた時間を用いての作業であったため、
また秋山清の著作活動が六十年を越える長き
にわたるため、内容的には不完全なものであ
ることをお詫びさせていただく。

特に戦前から一九四〇年代にかけては抜け
ている点が多く、この時期に関しては、ほん
のメモ程度のつもりである。敗戦からの五年
については、『コスモス』百号記念の「コス
モス総目次」などを参照していただきたい。
したがってこの目録は、一九五〇年からは
詳しいが、もちろんそれとて完璧というには
遠く、漏れているものかなりあると思われる
が、『コスモス』終刊号の発行されるのを
機会として、とにもかくにも「秋山清・著作
目録」のための第一次資料として、ここに発

表する次第である。

途切れ途切れの作業でもあったため、表記の統一もままならなかったが、もとの見当をつけやすく、もとに当たりやすく、を心掛けたつもりではある。秋山清研究がもしこれからも行われるならば、そのための手掛かりとして、この著作目録がいくらかでも役立つことあれば幸いである。

なお秋山清は、戦前は局清、高山慶太郎の筆名を用いること多く、戦後は秋山清がほとんどであるが、時には夏川小吉、高田太郎、直方十郎なども用いている。

コスモス創刊同人現存唯一者
小野十三郎の新作60余編
詩集「いま いるところ」
題字 榊莫山 跋 藤沢恒夫 編集 寺島珠雄
箱入B5判上製 ¥3500円(税込み)
地方・小出版流通センター取扱い
郵送の場合、送料310円
大阪市天王寺区石ヶ辻町3-10 宝栄ビル404
電話06(772)7672 浮游社
振替 大阪7-47825

●編集後記

▽始めがあれば、終わりもあっていいわけ、この号でコスモスは終刊号ということになった。わたしたちのコスモスは、もう出ることはない。

▽創刊は敗戦直後の1946年から、遠くぼうっとかすむぐらいの過去である。創刊のころのいきさつなどは、いまの同人はだれも知らない。いや現同人では、長谷川七郎がただひとり、創刊号に書いているから、なんらかのかかわりはあったのだろう。

▽創刊されてから今日まで、ずっと継続してきたわけではない。何回か中断しながらということになる。同人の顔ぶれも変わったし、内容もむろん変わっている。だが、つづいてきたのは誌名だけかという、そうでもない。一貫してきたものをとりだすとすれば、それは反対派であり、少数派であるといったところか。左右を問わず、権力的なものにたいしては、いわば体質的に同調しえないものが、コスモスにはある。しかしそんなことに熱中する人間が、この世にたくさんはいないから、当然ながら少数派になるわけだ。

▽この行き方は間違っているとは思わない。

▽これが最後の編集後記なので、名文をもしたいたい昨夜は飲み屋で思っていたが、柄でもなしし能力もないことに、今は気がついていいる。なんだこれで終わるのかというような、他人事みたいな気持ちなのである。台風の目のなかなどと言うのは、格好がよすぎることになるだろう。

▽昭和天皇が死んで皇太子が天皇になり、平成とやらになって行くのをみていたのは、つい先だつてのことであるが、ずいぶん時間が遠くなったような気がする。このところ何冊かの歴史ある詩誌がつづけて終廃刊になっているようだが、そのことと深層心理的な関係があるのだろうか。

▽コスモスの創刊は敗戦の翌年昭和二年の四月であるから、ざっと計算すると、昭和の戦後四十三年八月七日間プラス平成の九月二十四日間つづいていたことになる。もちろん中断ありで、これで通巻一〇一号。何となくおまけみたいな、急死みたいなこの一号が、終刊号となるのである。

▽たとえば三十数年後に、コスモス終刊の平成元年が西暦何年であったかは、指を折って数えてみなければならぬだろう。そこでは世界史の流れが中断され、いつとき空白になっ

てしまう。元号制すらわたしたちはつづすことができなかった。敗北の味をなめながらわたしたちはこれからも換算能力を研いでいなければならぬ。

▽突然思い立って、カナダなど外国を小さく旅してきた。実感したのは、日本および日本人のリッチなこと、その集団的人格の貧しさだった。しかし経済面では、二十二年前に東南アジアを走りあるいた経験があるが、当時は比べものにならない。その二十二年のうちの十六年を、わたしはコスモスにいたわけだ。老眼鏡も必要になるのである。

▽街中にしゃれた文句が溢れている。それを詩的フレーズというふうには曲解すれば、コスモスの写実的な詩の一行などは、骨董品店に入ってしまうかもしれない。けれども「瞳は精神より欺かれることが少ない」のである。

▽コスモスの詩人たちは、現代的にはまったく利益にならない詩の仕事を、シジフォスの神話のように、営々とやりつづけてきた。わたしにも、コスモスにいたが故にみえてきた世界がたしかにある。もっともその分だけ、みえなくなつたものもあろうが、なかに、詩なんて、どうせひとりのことさ、とうそぶくものがわたしにはある。いや、コスモスには

むしろますます必要になってきている。ではなぜコスモスをやめるのか。何十年もの積み重ねというものは、それなりに惰性化するし、不自由さにもなってくる。創刊以来の秋山清の死が、くぎりをつけるきっかけとなった。

▽秋山だけではなく、比較的最近だけを見て、コスモスは力のある同人を失った。浜川弥や宮田正平である。彼らに対する本格的な評価は、まだなされているとはいいたい。この号の秋山論はそのための一過程ということになるが、現実と密着したところで批判の目をきたえあげてきたこれらの詩人たちについて、別の場であってもさらに論じていかなければならぬだろう。

▽陽光さんさんの日曜日に、団地から林をぬけて、まだ残っている田んぼの道を歩いた。そのはずれにひとむれのコスモスが咲き乱れていた。大きく伸びひろがって、どこまでもあざやかな赤だった。誰にも手入れされないままに、花のコスモスは勝手だった。

▽コスモスの同人たちは、みんな長いあいだ詩にかかわってきた人たちだ。コスモスがなくなつても、その文学的持続がとどめるはずもあるまい。このところちょっと病人がふえすぎたが、また会いましょう。(西)

ある。その中心に秋山清がいた。

▽ご覧のように、一九八九年十月のコスモス終刊号は、秋山清論特集である。第四次の同人外から、岡田孝一、小野十三郎、錦米次郎、羽生康二、藤森節子、清水清、秋山雁太郎の諸氏が参加してくれた。

▽地球の転がっていくその先がどうなるかは誰にもわからないが、いまだに戦後は、個的体験と幻想の闇のなかに、わたしには生きていくように思われる。コスモスは解散するが、ばらばらに散っていく同人たちの前途に幸あれかし。(暮尾)

コスモス 第62号 (通巻10号)

▲定価七〇〇円▼

発行 一九八九年十月三十一日

終刊号

発行所 コスモス社

〒165東京都中野区新井

二一六一七 加清方

電話 〇三三八八五〇六五

印刷 (資) オカグ印刷

名古屋市中野区長戸町四一〇